

道 -ROAD-

大阪学芸中等教育学校
校長室だより

大きな耳 小さな口 優しい目

いよいよ今日から 2 学期がスタートしました。7 月 31 日の梅雨明けの後、8 月に入り猛暑が到来しました。特に、お盆のころから猛烈な暑さとなり、連日の報道では「危険な暑さ」「気象災害」という言葉もよく聞かれました。まだまだ厳しい暑さが続いています。無理をしすぎて熱中症にならないようにしてください。また、夏の疲れが出やすい時期でもあります。まずは、自分の体調管理をしっかり行い、生活リズムを元に戻して欲しいと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大も、安心できる状況ではありません。しばらくは、コロナと熱中症と両方に気をつけながらの生活を願います。

今日は、2 学期のスタートにあたり「コミュニケーション」について話をします。

お互いの意思を疎通させるためのコミュニケーション手段として会話があります。会話は「自分が発言し、相手の発言を聞く」ということで初めて成立します。これを「**言葉のキャッチボール**」と例えることがあります。

キャッチボールをするときには、相手が受けやすいようにボールを投げます。プロ野球の選手が小さな子どもとキャッチボールをする時に剛速球は投げません。相手の技術に合わせて、受けやすいようにゆっくり投げてあげるし、投げ返してきたボールが横にそれでも懸命に走って受けてあげます。しかしながら、どちらか一方が相手の言葉をしっかり受け止めずにいきなり暴投を投げるように話をしたり、一方的に話をし続ければ会話の流れは生じません。この様子を「**言葉のドッジボール**」と呼び、会話が成立しないことを皮肉っています。相手にボールをあてることに必死になっているような話し方です。

人との付き合い方を表す言葉に「**大きな耳、小さな口、優しい目**」というのがあります。

「大きな耳」というのは、まずは人の話をしっかり聞きなさいということです

「小さな口」というのは、自分の意見を言い過ぎるなということです。

以前、先輩の先生に「なぜ私たち人間には**口は一つ、耳は二つ**あるのだと思う」と聞かれたことがあります。それまで、疑問に思ったり考えたりしたこともありませんでした。その後、その先生から「耳が二つあるのは口の二倍必要だから。つまり**話すことの二倍聞きなさい**ということ。」と教えてもらったことを思い出します。

人の話をろくに聞きもしないで、自分の主張ばかりしてはいけません。つい自分の意見を先に分かってもらいたくなるけど、そんな時こそ、口と耳の数を思い出してください。

最後に「優しい目」というのは、目配り・気配りをするということです。今、話をしている人はどんな気持ちなのか、横の人はその話をどんな気持ちで聞いているのかを読み取ることです。その場の空気を読むには、自分の心は広く優しくなければだめだということを「優しい目」という言葉で表しています。人とのコミュニケーションで「大きな耳、小さな口、優しい目」を常に心掛けて欲しいと思います。

それでは、2 学期も授業にしっかり集中すること。毎時間毎時間の授業の積み重ねを大切にしてください。特に、6 年生は自分の進路に向け、いよいよ正念場を迎えます。最後まで粘り強く努力を続けて欲しいと思います。

コロナの影響で引き続き我慢をしいられますが、2 学期も明るく元気に生き生きと学校生活を送ってくれることを期待しています。